

質疑応答(要旨)

Q1	都市鉱山から希少金属を回収するという大変貴重な事業を行っていると思います。しかしながら、貴金属を溶解した際に廃液が発生することが気になります。適切に対処しているとは思いますが、対処方法について教えてください。
A1	廃液につきましては、自社で処理する場合と社外へ処理を委託する場合があります。自社で処分する場合は、法定基準よりも厳しい自主基準を設定し、適切に管理・無害化処理を行っております。また、その結果は関係官庁へと自主報告を行っております。自社で無害化することが難しい場合には、適切な許認可を有する産業廃棄物業者へと処理を委託しております。
Q2	最近では金の価格が高値で推移しています。金価格が収益に与える影響、収益に対する感応度について教えてください。
A2	金価格が上昇すると、販売価格が上昇し、売上高は増加しますが、同時に仕入価格も上昇します。また、金価格の上昇は取引先の生産動向にも変化が生じるなど、不透明な部分が多数あり、収益に対する感応度については判定が難しいと考えております。
Q3	物流オペレーションの拠点という観点から見て、福島という土地はどのようなのでしょうか？
A3	今後、事業を継続して行っていく中で、西日本にも製造拠点を設置しなければならないタイミングが来るかもしれません。しかしながら、現状においては考えておりません。
Q4	各社製造拠点がアジアを中心とする海外へと移転しています。御社における海外展開について、話を聞かせていただきたい。
A4	当社はマレーシアに子会社を有しており、同社を中心として、海外展開を行っております。スマートフォンの生産調整等による取引先の減産の影響は海外においても同様であり、事業環境が悪化しているのが現状です。集荷量の安定確保のため、これまでのスクラップ集荷に加え、得意分野である貴金属の洗浄事業を開始しており、集荷量の拡大に努めております。
Q5	リチウムイオン二次電池についてですが、これからEVが普及していても、リサイクル段階に至るまでは、時間がかかるのではないのでしょうか？
A5	おっしゃる通り、車載用リチウムイオン二次電池がリサイクル段階へと至るまでは、10年から20年という期間がかかるかもしれません。これは例えば、自動車用に使用されたのち、家庭用蓄電池として再利用されるなどのリユース段階があり、最終的にリサイクル段階へと移行するためです。当社における当面のターゲットは、リチウムイオン二次電池の製造工程で発生する不良品や廃棄物の他、既にリサイクル段階へと至ったパソコンやスマートフォンに使用されたリチウムイオン二次電池です。

(ご留意事項)

この資料は、弊社説明会にご出席できなかった方のためのご参考として掲載しているものであり、説明会で話した内容をそのまま文章に起こしたものではありません。ご了承ください。